

(3) 大気環境の状況

ア 気 象

名古屋地方気象台における過去5年間(平成28～令和2年度)の年間平均気温は16.8℃、年平均降水量は1,685 mmである。

また、名古屋地方気象台及び調査地域周辺の常監局である白水小学校、惟信高校、東海市名和町、元塩公園及び港陽における過去5年間(平成28～令和2年度)の風向・風速の測定結果は表 1-4-12 に、常監局の位置は図 1-4-16 に示すとおりである。

年間の最多風向は、名古屋地方気象台、白水小学校及び東海市名和町が北北西、惟信高校、元塩公園及び港陽が北西となっている。年間の平均風速は、名古屋地方気象台が3.0m/s、白水小学校が2.1m/s、惟信高校が3.0m/s、東海市名和町が2.6m/s、元塩公園が1.2m/s、港陽が2.8m/sとなっている。

出典)「気象観測データ」(気象庁ウェブサイト)

表 1-4-12 気象測定結果[月別最多風向及び平均風速](平成28～令和2年度)

単位：風速（m/s）

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
名古屋地方気象台		平均風速	3.5	3.1	3.0	2.9	3.0	2.8	2.8	2.8	2.9	3.1	3.3	3.5	3.0
		最多風向	NNW	SSE	SSE	SSE	SSE	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW
常 監 局	白水小学校	平均風速	2.3	2.3	2.2	2.3	2.4	2.2	2.0	1.9	1.8	1.9	2.0	2.1	2.1
		最多風向	NNW	S	S	S	S	N	N	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW
	惟信高校	平均風速	3.5	3.1	2.9	2.8	3.0	2.8	2.8	2.7	2.9	3.0	3.2	3.4	3.0
		最多風向	NW	NW	NW	SE	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW
	東海市名和町	平均風速	3.2	2.5	2.3	2.1	2.4	2.5	2.5	2.7	2.7	2.7	3.0	2.9	2.6
		最多風向	NW	NW	SSE	SE SSE	SE	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NW	NW	NNW
	元塩公園	平均風速	1.5	1.1	1.0	0.8	1.0	1.0	1.2	1.2	1.3	1.4	1.5	1.5	1.2
		最多風向	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW
	港陽	平均風速	3.1	2.7	2.6	2.4	2.6	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.2	3.4	2.8
		最多風向	NW	NW	NW	SE	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW	NW

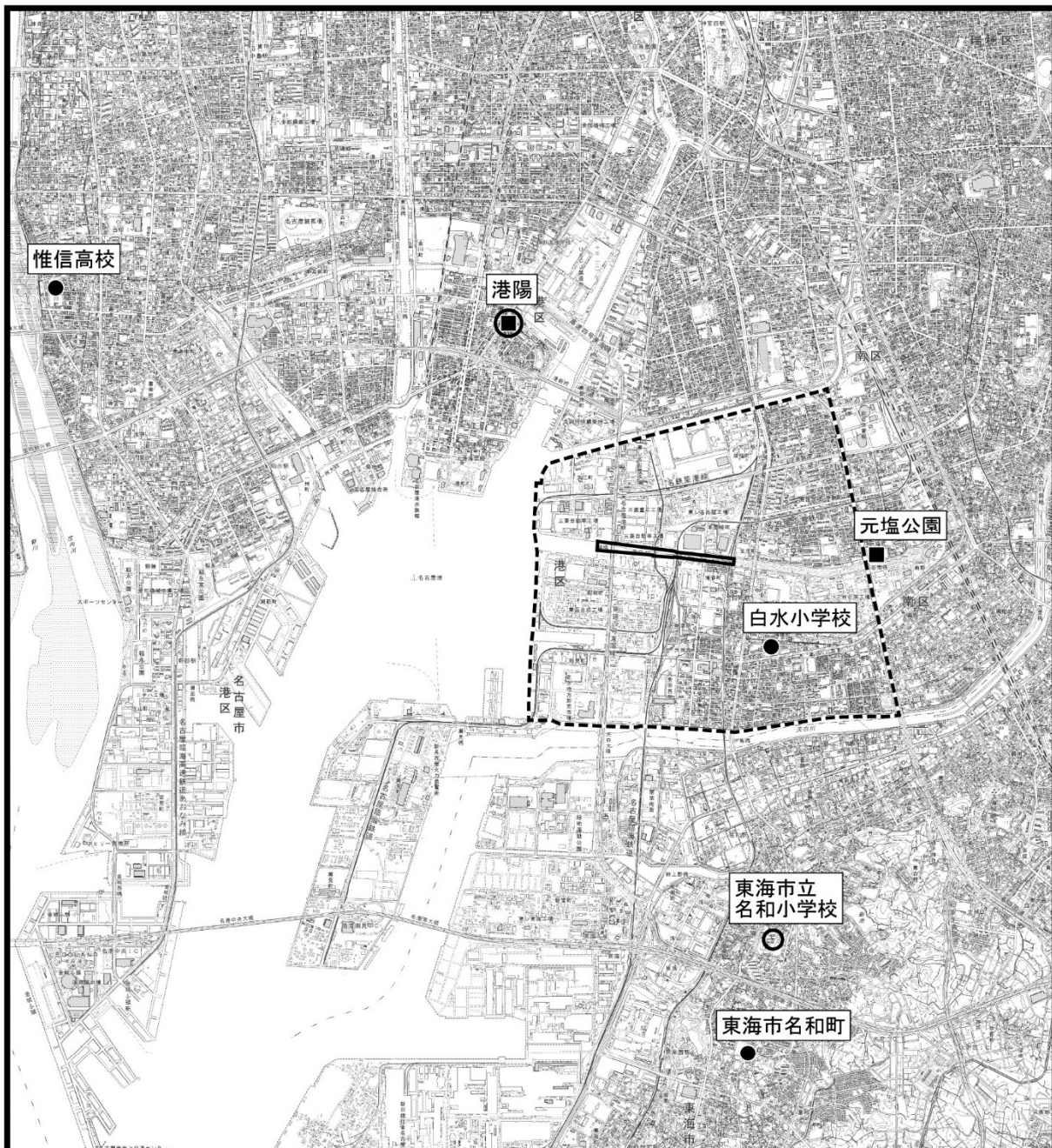
注)1:1時間値に基づき作成した。

2:東海市名和町の測定期間は、平成31年3月5日からとなっている。

3:港陽は風向風速計の故障のため、令和元年1月1日(1:00)～令和2年6月16日(13:00)の期間は欠測となっている。

出典)「気象観測データ」(気象庁ウェブサイト)

「愛知県大気汚染常時監視結果」(愛知県ウェブサイト)



- | | |
|---------|---------------|
| ■ 事業予定地 | ● 常監局（一般局） |
| ⋯ 調査地域 | ■ 常監局（自排局） |
| | ○ ダイオキシン類調査地点 |

注）本図面は、調査地域周辺の常監局の位置がわかるよう、縮尺を6万分の1としている。

出典）「令和2年度 大気汚染常時監視結果」（名古屋市ウェブサイト）
「令和2年度 大気汚染調査結果」（愛知県ウェブサイト）
「令和2年度 ダイオキシン類調査結果」（名古屋市ウェブサイト）
「ダイオキシン類環境調査結果」（愛知県ウェブサイト）

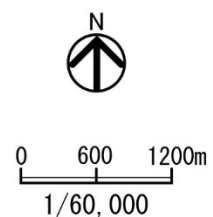


図 1-4-16 常監局及びダイオキシン類調査地点位置図

イ 大気質

調査地域及びその周辺の常監局は、一般局である白水小学校、惟信高校及び東海市名和町、自排局である元塩公園及び港陽があり、これらの測定局では、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント及び微小粒子状物質の測定が行われている。これらの常監局の位置は、前掲図 1-4-16 に示すとおりである。

(7) 二酸化硫黄

二酸化硫黄の令和 2 年度における測定結果は、表 1-4-13 に示すとおりであり、白水小学校では環境基準を達成している。

表 1-4-13 二酸化硫黄測定結果（令和 2 年度）

測定局	年平均値	短期評価					長期評価			1 時間値の最高値
		1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日 平 均 値 が 0.04ppm を超えた日数とその割合		環境基準の達成状況	日平均値の 2%除外値	日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の達成状況	
	(ppm)	(時間)	(%)	(日)	(%)	○:達 成 ×:非達成	(ppm)	○:無 ×:有	○:達 成 ×:非達成	(ppm)
白水小学校	0.001	0	0	0	0	○	0.002	○	○	0.019

注) 1:環境基準は、「1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。」である。

2:評価方法は、「1 日平均値の高い方から 2%の範囲内にあるものを除外した値が 0.04ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。」である。

出典)「令和 2 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

(イ) 二酸化窒素

二酸化窒素の令和 2 年度における測定結果は、表 1-4-14 に示すとおりであり、元塩公園が環境目標値を達成していない。なお、他の測定局は環境基準及び環境目標値を達成している。

表 1-4-14 二酸化窒素測定結果（令和 2 年度）

測定局	年平均値	1 時間値 の最高値	長期的評価			日平均値が0.06ppmを超 えた日数とその割合		日平均値が0.04ppmを超 えた日数とその割合	
			日平均値 の年間 98%値	達成状況					
				環境 基準	環境 目標値				
	(ppm)	(ppm)	(ppm)	○：達 成 ×：非達成		(日)	(%)	(日)	(%)
白水小学校	0.014	0.067	0.032	○	○	0	0	0	0
惟信高校	0.010	0.059	0.025	○	○	0	0	0	0
東海市名和町	0.014	0.068	0.033	○	△	0	0	0	0
元塩公園	0.021	0.076	0.041	○		×	0	0	8
港陽	0.013	0.067	0.032	○	○	0	0	0	0

注)1:環境基準は、「1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。」である

2:環境基準の評価方法は、「年間にわたる 1 日平均値のうち、低い方から 98%に相当する値が 0.06ppm 以下であること。」である。

3:環境目標値は、「1 時間の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であること。」である。

4:環境目標値の評価方法は、環境基準と同一である。

5:東海市名和町に環境目標値は適用されない。

出典)「令和 2 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

「大気汚染常時監視結果」(愛知県ウェブサイト)

(ウ) 一酸化炭素

一酸化炭素の令和 2 年度における測定結果は、表 1-4-15 に示すとおりであり、元塩公園では環境基準を達成している。

表 1-4-15 一酸化炭素測定結果（令和 2 年度）

測定局	年平均値	短期的評価				長期的評価		1 時間値 の最高値
		8 時間値が 20ppm を超えた回数とその割合		日平均値が 10ppm を超えた日数とその割合		環境基準の 達成状況	日平均値 の 2%除 外値	
		(回数)	(%)	(日)	(%)	○：達 成 ×：非達成	(ppm)	
元塩公園	0.3	0	0	0	0	○	0.5	2.0

注)1:環境基準は、「1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。」である。

2:評価方法は、「年間にわたる 1 時間値の 1 日平均値のうち、高い方から 2%の範囲内にあるものを除外した値が 10ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。」である。

出典)「令和 2 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

(I) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の令和2年度における測定結果は、表 1-4-16 に示すとおりであり、東海市名和町で環境基準を、惟信高校及び港陽で環境目標値（快適な生活環境の確保に係る目標値）を達成していない。なお、他の測定局は環境基準及び環境目標値を達成している。

表 1-4-16 浮遊粒子状物質測定結果（令和2年度）

測定局	年平均値	短期的評価					長期的評価			環境目標 値（快適な生活環境の確保に係る目標値）の達成状況	1時間値 の最高値
		1時間値が 0.20 mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.10 mg/m ³ を超えた日数とその割合		環 境 基 準・環 境 目 標 値 の 達 成 状 況	日平均値の 2%除外値	日平均値が 0.10 mg/m ³ を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準・環境目標値(市民の健康の保護に係る目標値)の達成状況		
	(mg/m ³)	(時間)	(%)	(日)	(%)	○:達 成 ×:非達成	(mg/m ³)	○:無 ×:有	○:達 成 ×:非達成	○:達 成 ×:非達成	(mg/m ³)
白水小学校	0.015	0	0	0	0	○	0.040	○	○	○	0.128
惟信高校	0.016	0	0	0	0	○	0.041	○	○	×	0.121
東海市名和町	0.018	0	0	1	0.3	×	0.044	○	○		0.141
元塩公園	0.013	0	0	0	0	○	0.031	○	○	○	0.089
港陽	0.016	0	0	0	0	○	0.040	○	○	×	0.126

注) 1:環境基準及び環境目標値（市民の健康の保護に係る目標値）は、「1時間値の1日平均値が0.10 mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20 mg/m³以下であること。」である。

2:評価方法は、「年間にわたる1時間値の1日平均値のうち、高い方から2%の範囲内にあるものを除外した値が0.10 mg/m³以下であること。ただし、1日平均値が0.10 mg/m³を超えた日が2日以上連続しないこと。」である。

3:環境目標値（市民の健康の保護に係る目標値）の評価方法は、環境基準と同一である。

4:環境目標値（快適な生活環境の確保に係る目標値）の評価方法は、「年平均値が0.015 mg/m³以下であること。」である。

5:東海市名和町に環境目標値は適用されない。

出典)「令和2年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

「大気汚染常時監視結果」(愛知県ウェブサイト)

(オ) 光化学オキシダント

光化学オキシダントの令和2年度における測定結果は、表 1-4-17 に示すとおりであり、いずれの測定局も環境基準及び環境目標値を達成していない。

表 1-4-17 光化学オキシダント測定結果（令和2年度）

測定局	昼間の 1 時間値の 年平均値	短期的評価						昼間の 1 時間値の 最高値
		昼間の1 時間値が0.06ppmを超えた 日数及び時間数とその割合				環境基準の 達成状況	環境目標値 の達成状況	
	(ppm)	(日)	(%)	(時間)	(%)	○:達 成 ×:非達成	○:達 成 ×:非達成	(ppm)
白水小学校	0.032	60	16.4	244	4.5	×	×	0.092
惟信高校	0.033	71	19.5	294	5.4	×	×	0.094
東海市名和町	0.029	54	14.8	195	3.6	×		0.089
港陽	0.031	61	16.7	248	4.6	×	×	0.093

注)1:環境基準及び環境目標値は、「1時間値が0.06ppm以下であること。」である。

2:環境基準及び環境目標値の評価方法は、「5時から20時の昼間時間帯において、年間を通じて1時間値が0.06ppm以下に維持されること。」である。

3:東海市名和町に環境目標値は適用されない。

出典)「令和2年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

「大気汚染常時監視結果」(愛知県ウェブサイト)

(カ) 微小粒子状物質

微小粒子状物質の令和2年度における測定結果は、表 1-4-18 に示すとおりであり、いずれの測定局も環境基準及び環境目標値を達成している。

表 1-4-18 微小粒子状物質測定結果（令和2年度）

測定局	長期的評価						
	短期基準				長期基準		環境基準の 達成状況
	1日平均値が35 μ g/m ³ を超えた日数とその割合		1日平均値の年間98パーセンタイル値	短期基準との比較	年平均値	長期基準との比較	
	(日)	(%)	(μ g/m ³)	○:達成 ×:非達成	(μ g/m ³)	○:達成 ×:非達成	
白水小学校	1	0.3	23.1	○	9.4	○	○
惟信高校	2	0.6	24.2	○	10.2	○	○
東海市名和町	3	0.8	26.1	○	11.2	○	
元塩公園	1	0.3	25.6	○	11.2	○	○
港陽	2	0.6	25.6	○	11.1	○	○

注)1:環境基準及び環境目標値は、「1年平均値が15 μ g/m³以下であり、かつ、1日平均値が35 μ g/m³以下であること。」である。

2:環境基準及び環境目標値の評価方法は、「1年平均値が15 μ g/m³以下であること(長期基準)かつ、1日平均値のうち年間98パーセンタイル値が35 μ g/m³以下であること(短期基準)」である。

3:東海市名和町に環境目標値は適用されない。

出典)「令和2年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

「大気汚染常時監視結果」(愛知県ウェブサイト)

(4) 有害大気汚染物質等

a 環境基準が定められている物質

有害大気汚染物質等（環境基準が定められている物質）の令和2年度における測定結果は、表 1-4-19 に示すとおりであり、いずれの測定局も環境基準を達成している。

表 1-4-19 環境基準が定められている物質の測定結果（令和2年度）

測定局	白水小学校	東海市 名和町	元塩公園	港陽	環境基準の 達成状況 ○：達成 ×：非達成
ベンゼン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.72	0.75	0.72	0.68	○
トリクロロエチレン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.39	0.28	0.32	0.59	○
テトラクロロエチレン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.10	0.0068	0.21	0.12	○
ジクロロメタン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	2.2	1.2	3.3	2.0	○

注)1: 値は、年平均値である。

2: 環境基準は、以下に示すとおりである。

ベンゼン： $3\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下

トリクロロエチレン： $130\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下

テトラクロロエチレン： $200\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下

ジクロロメタン： $150\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下

出典)「令和2年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

「有害大気汚染物質等調査結果」(愛知県ウェブサイト)

b 指針値が定められている物質

有害大気汚染物質等（指針値が定められている物質）の令和２年度における測定結果は、表 1-4-20 に示すとおりであり、いずれの測定局も指針値を達成している。

表 1-4-20 指針値が定められている物質の測定結果（令和２年度）

測定局	白水小学校	東海市 名和町	元塩公園	港陽	指針値の 達成状況 ○：達 成 ×：非達成
アクリロニトリル (μg/m ³)	0.048	0.26	0.050	0.034	○
塩化ビニルモノマー (μg/m ³)	0.010	0.014	0.011	0.009	○
水銀及びその化合物 (ng/m ³)	2.4	1.9	2.0	2.4	○
ニッケル化合物 (ng/m ³)	12	2.7	12	5.6	○
クロロホルム (μg/m ³)	0.38	0.19	0.34	0.30	○
1,2-ジクロロエタン (μg/m ³)	0.17	0.14	0.18	0.17	○
1,3-ブタジエン (μg/m ³)	0.051	0.046	0.062	0.046	○
ヒ素及びその化合物 (ng/m ³)	1.7	0.25	1.6	1.8	○
マンガン及び その化合物 (ng/m ³)	40	23	34	31	○
塩化メチル (μg/m ³)	1.4	1.3	1.4	1.5	○
アセトアルデヒド (μg/m ³)	1.7	3.3	2.3	1.9	○

注)1:値は、年平均値である。

2:指針値は、以下に示すとおりである。

アクリロニトリル：2 μg/m³ 以下

塩化ビニルモノマー：10 μg/m³ 以下

水銀及びその化合物：40ng/m³ 以下

ニッケル化合物：25ng/m³ 以下

クロロホルム：18 μg/m³ 以下

1,2-ジクロロエタン：1.6 μg/m³ 以下

1,3-ブタジエン：2.5 μg/m³ 以下

ヒ素及びその化合物：6ng/m³ 以下

マンガン及びその化合物：140ng/m³ 以下

塩化メチル：94 μg/m³ 以下

アセトアルデヒド：120 μg/m³ 以下

出典)「令和２年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

「有害大気汚染物質等調査結果」(愛知県ウェブサイト)

(ウ) ダイオキシン類

ダイオキシン類の調査地点は前掲図 1-4-16 に、令和 2 年度における大気環境調査結果は、表 1-4-21 に示すとおりであり、いずれの測定局も環境基準を達成している。

また、調査地域の事業場におけるダイオキシン類の測定結果は、表 1-4-22 に示すとおりであり、令和 2 年度の測定結果は、全ての事業場で排出基準及び処理基準を下回っている。

表 1-4-21 ダイオキシン類調査結果[大気環境] (令和 2 年度)

測定局	年平均値 (pg-TEQ/m ³)	環境目標値 の達成状況 ○：達成 ×：非達成
港陽	0.026	○
東海市立名和小学校	0.022	○

注) 環境基準は、「年平均値が 0.6pg-TEQ/m³ 以下」である。

出典)「令和 2 年度 ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

「ダイオキシン類環境調査結果」(愛知県ウェブサイト)

表 1-4-22(1) ダイオキシン類事業者測定結果[排出ガス] (令和 2 年度)

事業場	測定結果 (ng-TEQ/m ³ N)	採取年月日	排出基準
中部リサイクル株式会社	0.0048	R2.7.17	5ng-TEQ/m ³ N 以下
東亜合成株式会社名古屋工場	0.0000018	R2.5.18	
	0.0000073	R2.8.21	
	0.000072	R2.11.20	
	0.0056	R3.2.18	
名古屋市上下水道局	0.000043	R2.7.3	1ng-TEQ/m ³ N 以下
柴田水処理センター	0.00019	R2.7.10	

出典)「令和 2 年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 1-4-22(2) ダイオキシン類事業者測定結果[ばいじん及び燃え殻] (令和 2 年度)

事業場	種別	測定結果 (ng-TEQ/g)	採取年月日	処理基準
中部リサイクル株式会社	ばいじん	2.1	R2.7.17	3ng-TEQ/g 以下
名古屋市上下水道局	燃え殻	0.00050	R2.7.3	
柴田水処理センター	燃え殻	0.000032	R2.7.10	

出典)「令和 2 年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

ウ 騒 音

(7) 環境騒音

調査地域では港区船見町及び南区堤起町で環境騒音の測定が行われている。

令和元年度の調査結果は、表 1-4-23 に示すとおりであり、南区堤起町は、昼間及び夜間の両時間帯で環境基準を達成していない。

また、市内における環境騒音の主な寄与音源は、図 1-4-17 に示すとおりであり、自動車騒音が 67.0%と最も多く、次いで工場騒音の 8.7%の順となっている。

表 1-4-23 環境騒音調査結果（令和元年度）

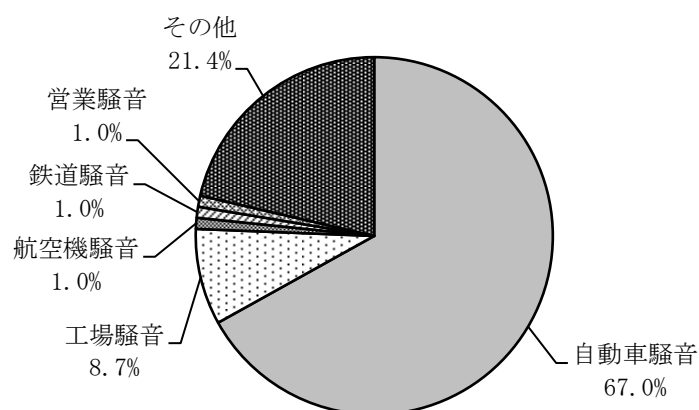
調査地点	用途地域	等価騒音レベル [L_{Aeq}] (dB)		環境基準	
		昼 間	夜 間	昼 間	夜 間
港区船見町	工業専用地域	63	59	—	—
南区堤起町	第 1 種住居地域	57	48	55	45

注)1:昼間は 6 時から 22 時まで、夜間は 22 時から翌日 6 時までである。

2:網掛は、環境基準に適合していないことを示す。

3:工業専用地域に環境基準は適用されない。

出典)「名古屋市の騒音 環境騒音編（令和元年度）」（名古屋市ウェブサイト）



出典)「名古屋市の騒音 環境騒音編（令和元年度）」
（名古屋市ウェブサイト）

図 1-4-17 環境騒音の主な寄与音源

(4) 自動車騒音

調査地域における平成 29～令和 2 年度の自動車騒音の調査結果は表 1-4-24 に示すとおりである。

等価騒音レベルの測定結果は昼間が 59～70dB、夜間が 58～70dB であり、昼間及び夜間ともに要請限度（昼間 75dB、夜間 70dB）を超えた地点はない。

また、調査地域における平成 29～令和 2 年度の自動車騒音に係る環境基準の面的評価結果は、表 1-4-25 に示すとおりであり、昼夜間ともに環境基準を達成した割合は、0% の区間が 1 区間あるが、他の区間は 81.1～100%となっている。

表 1-4-24(1) 自動車騒音調査結果（平成 29・30 年度）

路線名	測定地点	等価騒音レベル [L_{Aeq}] (dB)		交通量 (台)		大型車 混入率 (%)
		昼 間	夜 間	小型車	大型車	
一般国道 23 号 名古屋高速 3 号 大高線	南区要町	63	61	458	260	36.2
	南区要町	59	58	550	280	33.7
一般国道 23 号	南区浜田町	70	70	436	304	41.1
	南区東又兵ヱ町	66	63	278	233	45.6
一般国道 247 号	南区大同町	67	63	375	64	14.6
主要県道諸輪名 古屋線	南区白水町	69	64	81	41	33.6
主要県道名古屋 半田線	南区港東通	68	63	146	49	25.1

注)1:昼間は 6 時から 22 時まで、夜間は 22 時から翌日 6 時までである。

2:交通量は、昼間 10 分間における台数である。

出典)「名古屋市の騒音 自動車騒音・振動編（平成 29・30 年度）」（名古屋市ウェブサイト）

表 1-4-24(2) 自動車騒音調査結果（令和元年・2 年度）

路線名	測定地点	等価騒音レベル [L_{Aeq}] (dB)	
		昼 間	夜 間
一般県道名古屋半田線 名古屋高速 4 号東海線	港区昭和町	70	68
	南区浜田町	66	67
一般国道 23 号	南区堤町	62	59

注)1:昼間は 6 時から 22 時まで、夜間は 22 時から翌日 6 時までである。

2:港区昭和町は令和元年度、南区浜田町及び堤町は令和 2 年度の調査結果である。

出典)「令和元年度自動車騒音調査結果」（名古屋市ウェブサイト）

「令和 2 年度自動車騒音調査結果」（名古屋市ウェブサイト）

表 1-4-25(1) 自動車騒音に係る環境基準の面的評価結果（平成 29・30 年度）

評価対象路線	評価区間		評価対象 住居等 (戸)	面的評価結果				
	始 点	終 点		達成戸数 (昼夜間)	達成戸数 (昼間)	達成戸数 (夜間)	非達成戸数 (昼夜間)	達成率 (昼夜間) (%)
名古屋高速 3 号大高線	南区 丹後通	南区 丹後通	1	1	0	0	0	100
	南区 本地通	南区 丹後通	44	43	1	0	0	97.7
一般国道 23 号 名古屋高速 3 号大高線	緑区 鳴海町	南区 天白町	4	4	0	0	0	100
	南区 天白町	南区 要町	55	51	4	0	0	92.7
	南区 要町	南区 要町	94	81	8	0	5	86.2
	南区 要町	南区 丹後通	11	11	0	0	0	100
一般国道 23 号	南区 丹後通	南区 弥次エ町	270	219	48	0	3	81.1
	南区 弥次エ町	南区 弥次エ町	108	108	0	0	0	100
	南区 弥次エ町	南区 東又兵エ町	78	73	4	0	1	93.6
	南区 東又兵エ町	南区 東又兵エ町	19	19	0	0	0	100
	南区 東又兵エ町	南区 堤町	69	69	0	0	0	100
一般国道 247 号	南区内田橋 2 丁目 29	南区 港東通	1,155	1,125	0	3	27	97.4
	南区 港東通	緑区 鳴海町	836	832	1	0	3	99.5
主要県道諸輪名古屋線	南区 丹後通	港区 船見町	530	529	0	0	1	99.8
主要県道名古屋半田線	南区 弥次エ町	南区 港東通	316	315	0	0	1	99.7
	南区 港東通	港区 大江町	56	54	0	2	0	96.4
	港区 大江町	港区 大江町	0	0	0	0	0	—
主要県道名古屋半田線 名古屋高速 4 号東海線	港区 大江町	港区 船見町	9	0	0	0	9	0.0
一般県道名古屋東港線 名古屋高速 4 号東海線	港区 大江町	港区 竜宮町	1	1	0	0	0	100

注) 面的評価結果は以下のとおりである。

- ・達成戸数（昼夜間）：昼夜間とも環境基準を達成した住居等の戸数
- ・達成戸数（昼間）：昼間のみ環境基準を達成した住居等の戸数
- ・達成戸数（夜間）：夜間のみ環境基準を達成した住居等の戸数
- ・非達成戸数（昼夜間）：昼夜間とも環境基準非達成の住居等の戸数

出典)「名古屋市の騒音 自動車騒音・振動編（平成 29・30 年度）」（名古屋市ウェブサイト）

表 1-4-25 (2) 自動車騒音に係る環境基準の面的評価結果（令和元年・2 年度）

評価対象路線	評価区間		評価対象 住居等 (戸)	面的評価結果			
	始点	終点		達成戸数 (昼夜間)	達成戸数 (昼間)	達成戸数 (夜間)	達成率 (昼夜間) (%)
一般県道名古屋半田線 名古屋高速4号東海線	港区大江町	港区船見町	9	0	9	0	0.0
一般国道23号	南区浜田町	南区浜田町	32	29	32	29	90.6
	南区堤町	南区七条町	310	310	310	310	100.0

注)1:面的評価結果は以下のとおりである。

- ・達成戸数（昼夜間）：昼夜間とも環境基準を達成した住居等の戸数
- ・達成戸数（昼間）：昼間のみ環境基準を達成した住居等の戸数
- ・達成戸数（夜間）：夜間のみ環境基準を達成した住居等の戸数
- ・非達成戸数（昼夜間）：昼夜間とも環境基準非達成の住居等の戸数

2:一般県道名古屋半田線・名古屋高速4号東海線は令和元年度、一般国道23号は令和2年度の調査結果である。

出典)「令和元年度自動車騒音調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

「令和2年度自動車騒音調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

(ウ) 在来鉄道騒音

調査地域における、在来鉄道騒音の調査結果は、表 1-4-26 に示すとおりである。

平成 28 年度の調査結果（等価騒音レベル）は、名鉄常滑線が近接側軌道の中心より 12.5m 地点で 53dB、18m の地点で 63dB、25m の地点で 52～61dB、臨海鉄道東港線が近接側軌道の中心より 12.5m の地点で 62dB、25m の地点で 51dB である。

表 1-4-26 在来鉄道騒音の調査結果（平成 28 年度）

路線名	調査地点	軌道 構造	測定側	等価騒音 レベル [L _{Aeq}] (dB)		最大騒音 レベル [L _{Amax}] (dB)		列車速度 (km/h)	備考
				12.5m	25m	12.5m	25m		
名鉄 常滑線	南区宝生町	平地	下り側	63※	61	81※	78	89	※18m
	南区大同町	高架	下り側	53	52	70	69	109	
臨海鉄道 東港線	南区浜田町	鉄橋	単(下)	62	51	89	80	18	

注)1:測定側は、名古屋駅方向を上りとする。なお、臨海鉄道東港線は笠寺駅方向を上りとする。

2:12.5m と 25m は近接側軌道中心からの距離である。

3:※は、周辺環境等の影響で、備考に記載した距離で測定したことを示す。

4:列車速度は、12.5m 地点でのピークレベルを求めるために抽出した上位半数の列車の速度を算術平均して求めた。

出典)「名古屋市の騒音 在来鉄道騒音・振動編（平成 28 年度）」(名古屋市ウェブサイト)

エ 振 動

(7) 自動車振動

調査地域における平成 29～30 年度の自動車振動の調査結果は、表 1-4-27 に示すとおりであり、振動レベルは 49～56dB である。

表 1-4-27 自動車振動調査結果（平成 29・30 年度）

路線名	測定地点	振動レベル [L ₁₀] (dB)	交通量 (台)		大型車 混入率 (%)
			小型車	大型車	
一般国道 23 号 名古屋高速 3 号大高線	南区要町	49	458	260	36.2
	南区要町	49	550	280	33.7
一般国道 247 号	南区大同町	49	375	64	14.6
主要県道諸輪名古屋線	南区白水町	55	81	41	33.6
主要県道名古屋半田線	南区港東通	56	146	49	25.1

注)1:振動レベルは、昼間 10 分間における 80%レンジの上端値である。

2:交通量は、昼間 10 分間における台数である。

出典)「名古屋市の騒音 自動車騒音・振動編（平成 29・30 年度）」(名古屋市ウェブサイト)

(4) 在来鉄道振動

調査地域周辺における、在来鉄道振動の調査結果は、表 1-4-28 に示すとおりである。

平成 28 年度の調査結果（振動レベル）は、名鉄常滑線が近接側軌道の中心より 12.5 m の地点で 46dB、18m の地点で 55dB、25m の地点で 49～55dB、臨海鉄道東港線が近接側軌道の中心より 12.5m の地点で 58dB、25m の地点で 55dB である。

表 1-4-28 在来鉄道振動の調査結果（平成 28 年度）

路線名	調査地点	軌道 構造	測定側	振動レベル (dB)		列車速度 (km/h)	備考
				12.5m	25m		
名鉄 常滑線	南区宝生町	平地	下り側	55※	55	89	※18m
	南区大同町	高架	下り側	46	49	109	
臨海鉄道 東港線	南区浜田町	鉄橋	単(下)	58	55	18	

注)1:測定側は、名古屋駅方向を上りとする。なお、臨海鉄道東港線は笠寺駅方向を上りとする。

2:12.5m と 25m は近接側軌道中心からの距離である。

3:※は、周辺環境等の影響で、備考に記載した距離で測定したことを示す。

4:列車速度は、12.5m 地点でのピークレベルを求めるために抽出した上位半数の列車の速度を算術平均して求めた。

出典)「名古屋市の騒音 在来鉄道騒音・振動編（平成 28 年度）」(名古屋市ウェブサイト)

オ 悪 臭

令和２年度の名古屋市における悪臭に関する公害苦情処理件数は３４０件あり、公害苦情処理件数総数１,８０６件の約１９％を占めている。また、港区では総数１２４件のうち３１件（２５％）、南区では総数１２８件のうち１９件（約１５％）が、悪臭に関する苦情処理件数となっている。

出典）「令和３年版 名古屋市環境白書（資料編）」（名古屋市ウェブサイト）

カ 温室効果ガス等

名古屋市における温室効果ガス排出量は、表１-４-２９に示すとおりである。

２０１８年度の排出量は、基準年の２０１３年度から１３.０％減少している。なお、最も排出量が多いのはオフィス・店舗等で次いで工場等となっている。

また、名古屋市における２０１８年度の部門別温室効果ガス排出量は、図１-４-１８に示すとおりであり、運輸の割合が２８.９％と最も多く、次いで業務その他の２６.２％、産業の２１.１％の順となっている。

市内２局（農業センター（天白区）及び科学館（中区））における二酸化炭素濃度の測定結果は、図１-４-１９に示すとおりであり、農業センター及び科学館ともに増加傾向にある。

表 １-４-２９ 温室効果ガス排出量（２０１８年度）

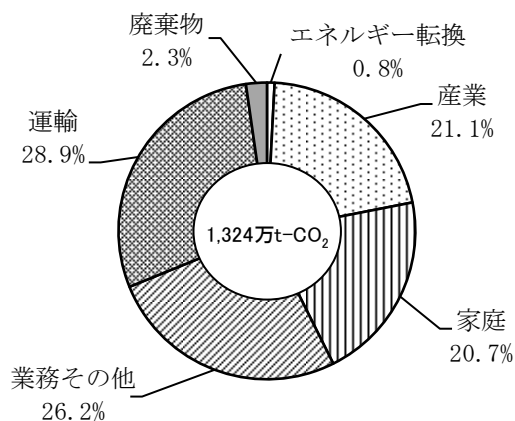
単位：万 t-CO₂

単位：万t-CO₂

ガス種	主体	活動区分		2013 年度 (基準年度)	2018 年度	基準年度比
CO ₂	市民	家庭	家庭生活	338	277	-18.0%
			廃棄物(家庭)	16	16	+4.2%
		マイカー	自動車(家庭)	152	127	-16.0%
		小計		505	421	-16.7%
	事業者	業務用車	自動車(事業)	198	165	-16.7%
		オフィス・店舗等	オフィス・店舗等	391	344	-11.9%
			工場・その他	工場等	341	290
		その他の交通機関		94	90	-4.6%
		廃棄物(事業)		13	13	+5.3%
		小計		1,037	903	-13.0%
	CO ₂ 小計			1,542	1,324	-14.2%
CO ₂ 以外の温室効果ガス			57	68	+19.9%	
温室効果ガス合計			1,599	1,391	-13.0%	

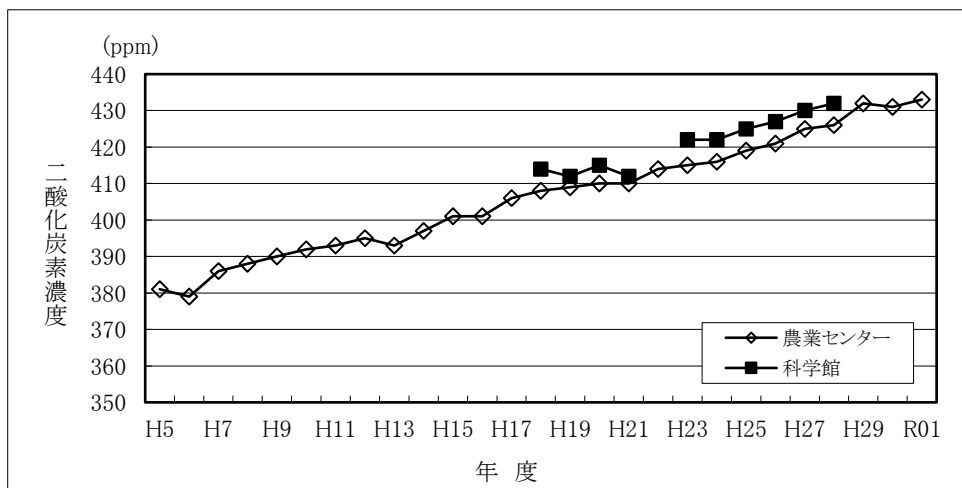
注）端数処理により、活動区分ごとのCO₂の合計が、全体の合計値と一致しないことがある。

出典）「温室効果ガス排出量等の調査結果」（名古屋市ウェブサイト）



出典)「温室効果ガス排出量等の調査結果」
(名古屋市ウェブサイト)

図 1-4-18 部門別温室効果ガス排出量 (2018 年度)



注)1: 科学館での測定は、平成 19 年 1 月から平成 29 年 2 月までとなっている。
 なお、平成 21 年 8 月から平成 23 年 3 月は測定を休止したため、平成 18 年度と 21 年度の値は参考値。また、平成 22 年度は欠測となっている。
 2: 農業センターの令和元年 11~12 月は、測定機器のポンプの故障により欠測が生じた。

出典)「名古屋市環境局事業概要 (令和 2 年度資料編)」(名古屋市ウェブサイト)

図 1-4-19 二酸化炭素濃度年平均値の推移